

## Z-CORE 技術仕様書：実装ロードマップ付き（Dify ベース）

### 1. 概要定義

Z-CORE は、哲学的知識と人格育成モデルをベースに、人間の思考・意思決定・行動支援を担う AI 頭脳モジュールである。Dify をプラットフォームの中核に据え、ユーザーに寄り添う思索支援型エージェントとして実装する。

### 2. 技術構造モデル

Z-CORE は以下の 5 モジュールで構成され、Dify UI と外部連携を通じて動作する：

1. Z-LOGOS（哲学 RAG）
2. Z-MENTOR（人格応答モデル）
3. Z-JUDGMENT（判断モデル）
4. Z-INTROSPECT（内省・目標生成）
5. Z-ACT（CLI/API による行動実行）

### 3. モジュール定義

#### Z-LOGOS

哲学的知見（論語・渋沢栄一・西洋哲学等）をベースに、LlamaIndex+VectorStore で RAG 化。PDF やテキストを元に検索応答を実装。

#### Z-MENTOR

Dify のプロンプトと Agent 機能を活用し、共感型・厳格型・問い返し型など人格切替を実装。ユーザー別に応答スタイルを個別最適化。

#### Z-JUDGMENT

Human Intelligence Tree の構造を JSON or ルールベースで定義し、各判断基準を明示化。Dify 内ルールエンジンとの連携も想定。

#### Z-INTROSPECT

目標設計や自己フィロソフィ生成を Dify ワークフローで構築。ユーザー入力に応じた自己対話テンプレを生成・保存。

#### Z-ACT

外部 API 連携（n8n, Gemini CLI など）を通じて、実際のファイル操作や通知処理を実行。Webhook でアクションを自動化。

### 4. 実装ロードマップ（ステップ形式）

1. 【STEP1】MVP 構築：Dify 上で Z-MENTOR+Z-INTROSPECT を先行実装。UI は Web/LINE 連携対応。

2. 【STEP2】 Z-LOGOS 連携：PDF/書籍を RAG 用データとして構築し、思想的引用応答を実現。
3. 【STEP3】 Z-JUDGMENT 設計：判断基準と Human Intelligence Tree 評価ロジックを明文化。
4. 【STEP4】 Z-ACT 連携：n8n+CLI 連携で現実アクションとの橋渡しを確立。
5. 【STEP5】 評価・改善：ユーザーごとのフィロソフィ記録と、メンタリング効果の定量評価へ。

## 5. セキュリティと制度対応

- ・ 個人情報：Firebase や専用 Vault での保存を想定。プライバシーポリシーと利用同意必須。
- ・ 著作権：引用元の著作権処理と出典明示を徹底。
- ・ AI 人格誘導：プロンプト設計・応答記録・利用ガイドラインを整備し、誤誘導リスクに対応。